

みなと 物語

時代先取りの遊園地 「市岡パラダイス」

明治から大正にかけて、農地は工場や住宅地へと姿を変えていきます。住む人が増えた港区にはレジャー施設がたくさんつくられました。

大正3年(1914年)には海水を利用した温泉施設「築港大潮湯」が誕生。清水・塩水・温泉の3つの浴槽のほか、滝の流れるプールや演芸場などがあったそうです。



築港大潮湯 大阪歴史博物館蔵



大正14年(1925年)にオープンした市岡パラダイスは、敷地約1万2千坪、桂町一帯(現在の夕風1丁目付近)にひろがる大娯楽施設でした。園の中央には高さ約30メートルの東洋一を誇る飛行塔が優雅に周り、関西初のアイススケート

場や千人風呂、映画館や大劇場などがありました。園内には人工の滝や農園、小鳥園などがあり緑あふれるくつろぎのスペースでした。

大阪の新名所となった市岡パラダイス。周辺には、商店や映画館、市場がぞくぞくと建てられ、夕風橋筋は「パラダイス通り」と呼ばれるほど活気付きました。

昭和5年(1930年)に市岡パラダイスは閉鎖されますが、パラダイス劇場は戦後、高潮対策の盛り土工事で撤去されるまで残っていました。



資料提供 橋爪紳也コレクション

ほかに、明治の中頃には天保山遊園地が、大正の初期には築港遊園地がありました。海と川に囲まれた立地を活かし、レジャースポットの多い楽しい港区は、今も昔も通じるところがあるように思えますね。